



蘇原第二小学校  
学校だより  
第11号  
令和4年2月24日

# きぼうのいずみ

これからの時代に生きて働く力…

校長 奥村 美樹恵

2月に入り、どの学級においても1年間の成果と課題を明らかにし、年度内のやりきる目標を掲げ、一生懸命取り組んでいます。そういった中で特に最近、子供たちの姿に成長を感じる事が多くなりました。

毎朝、東玄関で低学年の子供たちの健康チェックや消毒を行っています。あるとき6年1組の長谷川心美さんが「手伝いましょうか…」と声をかけてくれました。それから毎日、長谷川さんは低学年の子供たちに「おはよう」と声を掛け、「お熱は?」と聞いてくれ、一緒になって玄関での健康チェックを行っています。今では1年生の子供たちから「お姉さん」と声掛けられ、微笑ましい光景が玄関で見られます。



▲6-1 長谷川心美さん

また、先日の雪の日に、玄関で健康チェックのため列を作って待っている低学年の子供たちを見て、6年1組の川島悠来さん、松野心紀さん、清水文那さん、安江菜々花さんが「私たちも手伝います」と、低学年の健康チェックと同時に、傘をたたんだり、雪を払ったりと下学年の子供たちに積極的に関わってくれました。

目の前の光景から、自分にできることを…と判断し、行動してくれた6年生の子供たちの気持ちに大変感謝すると同時に、社会で生きていくために必要な力を確実に身に付けていることを嬉しく思いました。

また4年生は飼育活動として、うさぎの「ショコラ」のお世話をしています。排泄物を片付けたり、新しい餌と交換したり、命を大切にする気持ちを養いながら、全校の代表として責任もって活動を続けてきました。1年間の活動のまとめとして、子供たちが「ショコラ」の日常の様子を動画編集し、全校児童に公開をしたり、お気に入りの「ショコラ」の写真やイラストを掲示したりしています。「ショコラ」のよさを全校にどんな方法で紹介しようか、と仲間と知恵を出し合い、話し合い、試行錯誤しながら取り組んできた4年生の子供たちの姿にも、たくましさを感じると同時に、これからの時代で生きていくために必要な力を付けて始めていることに嬉しく思いました。



▼4年生の活動の様子

学校では、日々の学習や生涯にわたる学びの基盤となる力として「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の育成に取り組んでいます。こういった子供たちの姿は日々学校の教科指導等で大事に取り組んでいることが、生きて働いている姿だと思えます。いろんな経験やいろんな学びが子供たちにとって大きな力となることでしょう。これからも子供たちが身に付けた力を発揮出来る場を意図的に仕組み、またそういった場を通して子供たちの力を育てていきたいと思っています。